

芭蕉蔵

優秀作品発表

第14回

兼題「春一番」の部

特選第一席

予告なき息子の帰郷春一番

特選第二席

ドアマンは直立不動春一番

特選第三席

春一番白き巨船の万国旗

【講評】

今回の兼題「春一番」は、立春後に初めて吹く南風のことを言いますが、強い風の吹く春の情景を誰もが想起するため、同じような俳句が生まれやすいので注意が必要です。投句作品でも今月は特に類句が目立ちました。そんな中、特選・入選句はいずれも作者の実感、あるいは実際に見た情景を作品化しているため、読者に鮮明な印象を与えています。

特選第一席。離れて暮らす息子が、何も言わずに突然帰郷したので。折しも春一番の日。こう言われてみると、息子と春一番には、予告をせずに突然やってくるという共通点があることに気づかされます。ところで、息子さんは何か良い報告でも持ってきたのです

調布市 水谷友二

杉並区 小林恭子

習志野市 本城宏基

ようか？そう思わせるのも「春一番」という明るい季語の力によるものです。

第二席は早春の都会の景を描出しています。一日中、ホテルの前で客を待つドアマン。どんな天候の日にも直立不動で立っているのが仕事。今日も強風が吹いてきますが、暖かな春一番。直立不動のドアマンの表情にもどこか明るさが加わったように思えてきます。第三席のように、春一番と船を取り合わせた句は他にもありましたが、この句の船の白さと万国旗の色彩の鮮やかさは春到来の喜びにふさわしく、特選としました。船の大きさと白さ、万国旗をためかせる春一番。港には春の色彩と希望が溢れています。

【入選】

- 母の忌の近きを告げて春一番 町田市 牛島興成
- 春一番神保町の早仕舞ひ 伊勢原市 中本萬里
- 棧橋の巨船ゆらして春一番 横浜市 永易幸茂
- 春一番けふは抜くとふ親知らず 千葉市 馬場由紀子
- 校庭に迷ひこむ犬春一番 杉並区 藤本智子
- 春一番昼を灯して豆を炊く 鎌倉市 細田 俊
- 飼主の帽子追ひかけ春一番 横浜市 吉田みち

【添削例】

- 春一番北の故郷のたより来る (原句)
- 届きたる故郷のたより春一番 (添削句)
- 逆縁の涙に濁き春一番
- 逆縁の涙乾かし春一番
- 春一番集落にはかに動きけり
- 春一番集落動き初めにけり
- 老木や春一番に芽を孕み
- 春一番老木は芽を孕みたる
- 春一番しがらみすてし一歩かな
- しがらみをすてたる一歩春一番
- 乾きたる白き舗道や冴返る
- 乾きたる舗道の白さ冴返る
- 使い慣れし辞書のふくれて合格す
- 愛用の辞書のふくらみ合格子
- 柳絮飛ぶ川を挟みて古戦場
- 柳絮飛ぶ川の向かうは古戦場

自由題の部

特選第一席

子も孫も引き継がぬ土地耕せり

練馬区 伊藤たか子

特選第二席

新雪をよごして抜ける大根かな

調布市 林 幸江

特選第三席

裁判員候補者通知冴返る

松戸市 加藤浩雲

【講評】

特選第一席、いよいよ春耕の季節。耕しているのは、おそらく先祖代々耕し続けてきた農地なのでしょう。ところが、その大切な土地を子供も孫も継がないのです。もちろん農家にとっては悲しいことなのでしょうが、それでも今は黙々と耕すしかないという現実を、俳句のしらべに乗せてうまく詠んでいます。

第二席の季語は「大根」。使い方次第では「新雪」も冬の季語となりますが、ここでは大根を抜いたという事実が重

いテーマですので、季重なりとして否定する必要はありません。美しい雪をよごして抜かれる大根……その雪と大根の白さ、そして土の色が冬の季感と鮮明な情景を伝えていきます。

第三席の句は新しい現実を詠んで見事です。ある日突然届けられる「裁判員候補者通知」。受け取った作者の驚きはまさに「冴返る」という季語にびったり。肉体的寒さのみならず、心理的な冷えまで季語がたっぷり語っています。

【入選】

湧き水の立てるさざ波春隣

千葉市 梅林秋浪

落花ゆく流れの先も武蔵なる

北足立郡 島田千秋

悩み事一人で抱へ懐手

仙台市 中澤園子

上州の風の洗礼葱畑

千代田区 野尻正雄

まんさくの空にはじまる信濃かな

習志野市 本城宏基

父と子の影踏み遊び春惜しむ

調布市 水谷友二

春愁やすぐにほどける靴の紐

横浜市 吉田みち



西山 春文

選句・講評

「狩同人」俳人協会幹事
日本文藝家協会会員
本学商学部教授

応募方法

- 1 応募用紙を明治大学ホームページからダウンロードするか、あるいはA4用紙に次のことを記載の上、郵送・ファックス又はメールで応募してください。
http://www.meiji.ac.jp/koho/desukara/info_book/zasshi_bashoukura.html
- 2 未発表作品に限ります。
- 3 自由題と兼題のそれぞれ2句まで応募できます。応募は無料です。
- 4 自由題と兼題、どちらかを○で囲む、あるいは記してください。
(1枚の用紙に自由題と題詠の併記は不可)
- 5 住所・氏名・電話番号・作品等、必要事項を記入してください。
※ペンネーム(併号)の場合も、必ず本名を併記してください。
- 6 文字は楷書で記してください。
- 7 応募作品は返却しません。
- 8 特選に選ばれた方には特製図書カードを贈呈いたします。

応募先 明治大学経営企画部広報課 芭蕉蔵係
〒101-8301
東京都千代田区神田駿河台1-1
TEL03-3296-4083 FAX03-3296-4087
MAIL koho@micms.meiji.ac.jp

次号兼題「蟻」 5月15日必着